# 関西外大ルネサンス2009

Kansai Gaidai Renaissance 2009

## キャンパスは〝ちきゅう〟

学校法人関西外国語大学の中・長期ビジョン

2009年（平成21年）10月

学校法人　関西外国語大学

# 理事長メッセージ

学校法人関西外国語大学はこのたび、中・長期ビジョン「関西外大ルネサンス2009」を策定いたしました。少子化とグローバル化が進み、大学間競争が激化するなか、社会と時代の変化、ニーズを的確にとらえ、より魅力ある、個性あふれる大学として存在感を高めていくには、本学はどうあるべきなのか。私たちは何を目標にし、どう取り組み、ステップアップしていくべきなのか。中・長期ビジョンは、そのためのグランドデザインであり、「これからの外大」づくりの具体的な行動指針となるものです。

大学の最大の使命は、申すまでもなく、有為の人材の育成にあります。第二次大戦終結の直後に誕生した「谷本英学院」を原点とする本学は、平和の構築と繁栄、異文化理解の促進と共生の実現を外国語教育に託しました。留学網の整備・充実にも格段の力をそそぎ、いまでは世界50か国・地域に及ぶ、わが国有数の国際交流ネットワークを築き上げ、現在の、そして次代の、日本と世界を担う若者たちを数多く、社会に送り出してまいっております。

外大ビジョンは“ひとづくり”に賭ける、こうした本学の哲学や実践をさらに強固にし、未来へと繋げるために、私たちが取り組むべきテーマ、課題を6つのグループに分けて提示しています。本学を象徴するキャッチフレーズは「キャンパスは“ちきゅう”」とし、新たな時代の、新たな目標も建学の理念にプラスして掲げました。また、卒業生や海外からの留学生、修了生も含め、私たち一人ひとりが心掛けるべき「関西外大人行動憲章」も新しく定めています。

時代はいま、激しく動いております。21世紀に入って、はや10年近くが経ちましたが、未来への確かな道筋は見えてきません。世界は、日本はどこへ向かうのか。不透明感、閉塞感が増すばかりです。大学の世界もしかりです。私たちは現状を打破し、多くの課題に挑戦して、「大学のあす」を果敢に切り拓いていかねばなりません。それが、知識基盤社会の担い手たる、私たちの大きな使命、責務でもあるからです。

本学教職員から成る「将来構想検討委員会」は、こうした共通認識に立ち、中・長期ビジョンをまとめました。個別の目標達成については、ビジョンに沿って具体的な「行動計画」を作成し、順次、実行に移してまいる所存です。みなさま方の、なお一層のご協力、ご支援をお願いいたします。

2009年10月
学校法人関西外国語大学
理事長
谷本栄子

Message

# 建学の理念と外大ビジョン・6つの柱

関西外国語大学の始まりは、昭和20年秋、つまり敗戦の年の11月、大阪市東住吉区に呱々の声を上げた「谷本英学院」にさかのぼります。創立者は、戦後日本の復興と国際社会への復帰を「外国語教育」に託しました。その思いはやがて、国際人の育成と実学重視を謳う「建学の理念」に結実し、本学の過去、現在、未来をつなぐ行動原理となっています。そして、21世紀――。わたしたちは建学の理念に加えて、「外大ビジョン・6つの柱」を策定し、新たな地平をめざします。

**建学の理念**

- 国際社会に貢献する豊かな教養を備えた人材の育成
- 公正な世界観に基づき、時代と社会の要請に応えていく実学

**外大ビジョン・6つの柱**

- 国際通用力を保証する言語教育の実践拠点
- 高度な専門職業人育成へのアプローチ
- 国際人にふさわしい人間力の涵養と全人教育の推進
- 「キャンパスは“ちきゅう”」――― 学びのフィールドを広げ、深める
- 地域はパートナー ―――「グローカリズム」の実践
- 大学力の強化と充実 ――― 力強い未来のために

# 関西外大人行動憲章

| | |
|---|---|
| [学の研鑽] | わたしたちは、専門の語学、言語はもとより、多様な学問分野において常に研鑽を積み、知識基盤社会の構築、発展に寄与します。 |
| [国際人としての自覚] | わたしたちは、地球社会の一員であることを常に自覚し、異なる文化の尊重と共存、相互理解を推進します。 |
| [国際貢献] | わたしたちは、国際社会の平和と安全、繁栄と共生に向け、地球規模の課題克服に取り組みます。 |
| [人間力の涵養] | わたしたちは、個としての健全なる自我の確立とともに、社会的存在として全人的な資質の向上を図ります。 |
| [地域参画] | わたしたちは、自らの知識や能力、ならびに大学の教育資源を生かし、拠って立つ地域の文化的、教育的発展に貢献します。 |

**外大ルネサンス2009**

ルネサンスは「再生」、つまり「新たな誕生」を意味するフランス語です。全ヨーロッパに波及したルネサンスは文学、美術に限らず、広く文化の諸領域において清新な機運を引き起こし、「人間中心の近代文化への転換の端緒」（広辞苑）ともなりました。

現代も変化の激しい時代です。これまでの価値観や行動基準が大きく揺らぎ、あらゆる分野で不透明感が増しています。大学の世界も同じです。既成の概念や枠組みにとらわれていては、「確かなあす」は見えてきません。大学全体に改革のメスを入れ、自らの手で、自らの未来を切り拓くことが求められます。

外大ルネサンス―――。私たちは、かつての西欧のルネサンスに倣い、清新で闊達な機運に満ちた大学づくりをめざします。

# 外大ビジョン・6つの柱

## 国際通用力を保証す

外国語大学たる本学の教育の根幹は、言語教育にあります。英語やスペイン語などの国際共通語を習得し、その運用能力を向上させる。グローバル化の時代、私たちの地球は、ますます狭くなっています。国家や民族、価値観や利害の対立を乗り越え、平和を確立し、互いの歴史、文化を理解し、尊重し、共存、共生を図り、地球規模の課題解決に手を携える。そのためには、外国語による、自在で、豊かなコミュニケーション能力の習得が不可欠であることは言うまでもありません。

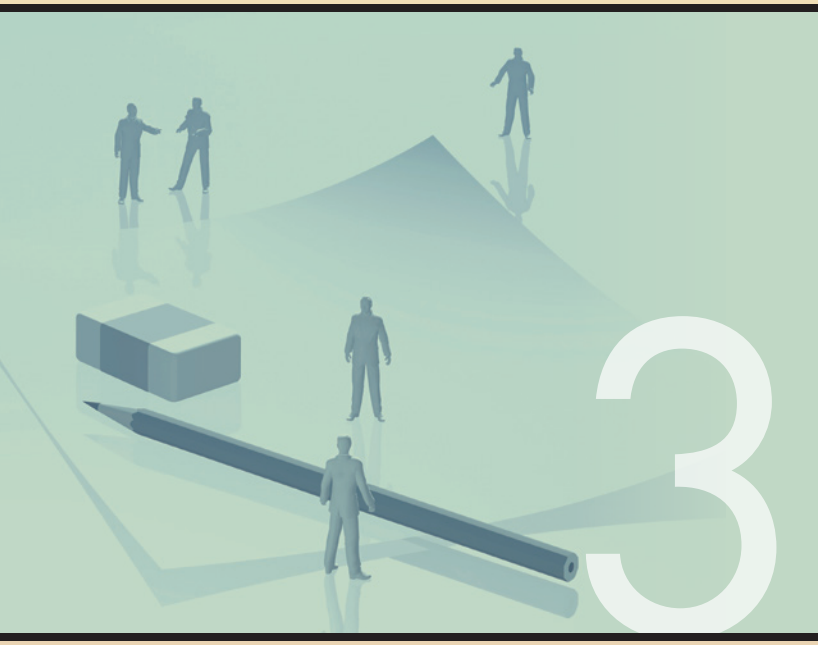
“地球のあす”を担う学生たちの言語運用能力をいかに強化し、国際通用力のあるコミュニケーション能力を身に付けさせるか——。本学は「国際人の育成」と「実学重視」という建学の理念に

## 高度な専門職業人育成へのアプローチ

グローバル化の時代は、また多様化の時代でもあります。多くの矛盾や対立、価値観の違いなどを克服し、地球規模での共存、共生社会の実現に貢献していくには、学びの深化と合わせ、そのフィールドを広げることが必要です。外国語大学ならではの高度な言語運用能力をベースに、多様な専門分野や学際的な領域にも踏み込み、豊かな知識と考察力、問題意識と課題解決力を養い、付加価値を高める。本学が「語学の、その先へ。」をキーワードとし、「語学＋α」の教育をめざす所以です。

新しい時代、本学は「キャリア教育」の充実と高度な専門職業人の育成を重点的な教育目標としています。大学、短大部ともカリキュラムを改定し、学生一人ひとりが自らの将来を見据えて、「＋αの学び」を選択するコース制を導入、経済学や情報、社会学系の科目を拡充してきていますが、これに続き、本格的に国際ビジネスなどを学ぶ新学部、あるいは新学科の創設も視野に入れています。また、キャリア形成により有効なカリキュラムの構築や国際インターンシップ、国際ボランティア活動の拡大などにも取り組んでいく方針です。

もちろん、留学ネットワークの活用も欠かせません。「学びたい国」の、「学びたい大学」で、「学びたいこと」を学ぶ。世界50か国・地域、327大学に広がる国際交流ネットワークは、学生個々人の関心、興味に応じた、地球規模での“＋αの



## 国際人にふさわしい

国際人として、専門職業人として、社会人として、そして何よりも一個の人間として自立していくには、確固たる人格の形成が欠かせません。“人間力”の涵養が求められる理由です。本学は、教育は共育、つまり「共に育つ」ことと捉え、「人間的な成長」と「社会人基礎力の向上」を重視し、全人教育を推進します。

その具体的な手立ての一つが「初年次教育」の充実です。本学は平成21年度にカリキュラムを改定し、従来の「クラスカウンセラー」に代わって、「クラスアドバイザー」制を導入、担当教員が身近な存在として、教学面だけでなく、キャリア形成や留学、クラブ活動、対人関係など学生生活のあらゆるシーン

# る言語教育の実践拠点

則り、招聘教員ら数多くのネイティブ教員を海外から受け入れ、「Intensive English Studies」「Curso Intensivo de Español」といった独自の授業システムを構築するなど、実践的な語学教育を展開してきましたが、これをさらに強化する一方、たとえば「英語を学ぶ」から「英語で学ぶ」、「スペイン語を学ぶ」から「スペイン語で学ぶ」への、全学的なレベルでの発想の転換と、授業のかたち、そのものの改革が求められていると考えます。

私たちはこうした認識に立ってカリキュラムを見直し、語学以外の専門分野や教養教育においても、英語やスペイン語、中国語などによる開講科目を大幅に増やし、「外国語で学ぶ」環境づくり、態勢づくりを強化してまいります。また、インターネットによる海外大学との連携授業の強化や、ICT（情報通信技術）を活用した学習支援システムの開発と導入、“学士力”を保証する新たな到達目標の設定、学生一人ひとりを支える学内バックアップ体制の整備などを通し、グローバル時代にふさわしい語学運用能力、コミュニケーション能力の習得を実現していく考えです。

本学は、創立者が「戦後日本の復興と国際社会への復帰」を外国語教育に託したところから出発しました。私たちは先見性に満ちた、その思いをしっかりと受け継ぎ、時代と社会の要請に応えつつ、世界レベルの言語教育の実践拠点をめざします。

学び”を保証しています。本学は外国語の単科大学ですが、そういう視点からは「総合大学を超えた単科大学」でもあるのです。

「キャリア教育」の充実と、「＋αの学び」の強化――。本学は学内での教育改革の推進と海外諸大学との連携を軸に据え、国際的な視野で活躍し得る専門職業人の育成に努めます。

2

# い人間力の涵養と全人教育の推進

で積極的に助言し、学生一人ひとりの人間的な成長をサポートするシステムを整えました。短大部でも常識やマナー、コミュニケーション能力などの「ジェネリックスキル（一般的・包括的な生きる力）」の向上をめざす「K.G.C.ベーシックス」を開講し、社会人基礎力の涵養に努めています。

国際人にふさわしい人間力の形成にはまた、留学が大きな役割を果たします。異なる文化と社会、多様な価値観との出合い……。好奇心が行動力を生み、豊かな人間性と広い視野を育んで、“地球共生社会”の実現に向けた、バランスある国際感覚を磨きます。世界に広がる、わが国屈指の国際交流ネットワークは、次世代の国際人育成に大いなる力を発揮しています。

私たちは「共育」の推進と留学網の活用を通じ、人間的な魅力あふれる人材の育成に取り組みます。

4

# 「キャンパスは“ちき

「地球は狭くなった」といわれます。ICT（情報通信技術）の驚異的な進展と通信網の整備は世界的な“情報革命”をもたらしました。インターネットなどを活用すれば、多種多様な海外の情報も瞬時に手に入る。高度情報化社会の到来です。そういう意味では、確かに地球は狭くなりました。

しかし、実際に海外へ留学し、現地の空気を丸ごと吸って、そこに息づく異なる文化を、生活を、自らの身体で学び、成長する。グローバルな高度情報化社会においても、海外留学の意義と価値は高まりこそすれ、薄れることはありません。本学が留学ネットワークのさらなる充実、強化に取り組む訳はそこにあります。

# 地域はパートナー――「グローカリズム」の実

世界的な大学間ネットワークを持ち、国際人の育成を建学の理念とする本学も、その拠って立つ地域社会に存立の基盤があり、地域に支えられた存在であることは言うまでもありません。“グローカリズム”という言葉がありますが、本学はまさにグローバルな存在であると同時にローカルな存在でもあるのです。

大学の教育資源、人的資源を地域社会に還元し、連携して、地域の教育の充実と発展、社会の活性化に可能な限り貢献していくことは、本学に課せられた「もう一つの使命」であり、当然の責務でもあると考えます。

私たちはこうした認識に基づき、各府県や市レベルの教育委員会と連携して、中、高校教諭の「英語力ブラシュアップ研修」を開講したり、教職英語教育センターの学生を地域の教育現場へ派遣し、英語教育を支援するなどの活動を展開してきました。また最近では、高大連携の一環として、高校生を対象に「語学力向上コース」を開設、さらに英語教育活動が導入される小学校に関しても、本学独自の特別講座を開くなど、新しい試みにもチャレンジしています。

地元・枚方市との関係では、旧片鉾キャンパスの大学図書館（現在は市中央図書館）を寄贈したほか、インターネットを使った「ILS（Internet Learning Support）プログラム」をスタートさせ、「小中一貫英語教育特区」の認定を受けた同市の英語教育をサポートしています。また、英国の劇団による公演など、各種の公

6

# 大学力の強化と充実

私学の私学たる所以は、その個性にあります。建学の理念をどう具現化し、より個性的な、より魅力ある存在として、ステップアップしていくか――。“大学力”の強化、充実は、いつの時代においても、私たちが真摯に向き合い、挑戦し続けねばならない「永遠の課題」です。

大学改革の一環として、「第三者評価」が義務付けられた初年度の2006年3月、本学は財団法人・大学基準協会と短期大学基準協会から「適合」、「適格」の認定を受けました。また、ここ数年、「『ASEAN+3』大学コンソーシアム」の創設をはじめとする本学のプロジェクトが、文部科学省の「教育GP」や「現代GP」に相次いで選定、あるいは採択されています。知識基盤社会を支え

## きゅう”」── 学びのフィールドを広げ、深める

本学の単位互換提携校は現在、世界50か国・地域の327大学、派遣学生数は毎年約1600人に上ります。留学プログラムも、本学独自のユニークな「2か国留学」「2か年留学」などを含めて約30種類を数え、海外での学びをひときわ、多彩で豊かなものにしています。留学生別科で学ぶ外国人留学生も例年、40か国前後から約700人を受け入れており、キャンパス自体の国際化にも貢献しています。

こうした実績が示すとおり、私たちの「キャンパスは“ちきゅう”」プロジェクトは大きな成果を挙げていますが、現状に満足し、立ち止まっているわけにはまいりません。変化の激しい現代にあって、新たに惹起する地球規模の課題に挑戦し、未来を切り拓く有為の人材の育成が急務であるからです。

本学は今春、「『ASEAN＋3』大学コンソーシアム」を立ち上げました。日中韓3国とアセアン諸国が連携して、次世代のアジアを担う国際人を育成しようという、アジア初の国際的な大学コンソーシアムです。また、外国語大学では初めてとなる「関西外国語大学孔子学院」の今年度中の設立が決まりましたし、スペインやポルトガル、ラテンアメリカを対象とする「イベロアメリカ研究センター」の開設構想も浮上しています。

私たちは「キャンパスは“ちきゅう”」を合い言葉に、国際交流の新たな枠組みづくりにも力を入れ、学びのフィールドの一層の進化に取り組みます。

## 実践

開講座やシンポジウムを毎年のように開催し、市民の期待に応える一方、学生によるさまざまなボランティア活動も積極的に展開しています。

地域社会への貢献、地域社会との連携強化はまた、教育のあり方、人材育成など多くの分野で、大学自体の活性化にもつながります。地域社会は「本学のかけがえのないパートナー」であることを改めて自覚し、具体化を検討中の「中宮キャンパス英語教育センター」の新設など、学内組織も整備しつつ、自治体や企業、市民団体や教育現場との連携をさらに密にし、地域社会にとって、あるいは本学にとって、より効果的な「外大ソーシャルネットワーク」の構築をめざします。

## ── 力強い未来のために

る、高等教育の担い手としての、本学の取り組み、力量が高く評価されているのです。

もちろん、大学力が“一朝一夕”で備わるわけではありません。本学はこれまで、全学的な「健康診断」を何度も繰り返し、学生第一主義に立って教育・研究や国際交流、学生支援、経営基盤、組織のあり方など、あらゆる分野に改革のメスを入れ、大学力の強化を図ってきました。こうした積み重ねが、社会的な高い評価や、学生、保護者らの強い支持につながっていると自負しています。

“大学淘汰”の時代を迎えたいま、私たちの喫緊の課題は、大学力のさらなる強化、充実です。強力なリーダーシップのもと、組織を活性化し、教育資源や人的資源などを集中させて、本学のブランド力を高め、より魅力ある、個性的な大学として、しっかりと発展させていかねばなりません。

大学力の強化・充実も、すべての源は「人」にあります。留学生別科の修了生を含めた本学の卒業生は14万人を超え、国内はもとより、世界各地で活躍しています。これらの方々に“外大サポーター”としての役割を担ってもらうべく、近く、同窓会組織も立ち上げる方針です。

中、長期ビジョンの策定を第一歩として、本学は「力強い未来」へ向け、大学力の強化に努めます。

関西外国語大学将来構想検討委員会殿

2009年（平成21年）1月31日

学校法人関西外国語大学
理事長　谷本　榮子

次の事項について、理由を添えて諮問します。

［諮問事項］

**将来構想基本計画（中・長期ビジョン）の策定について**

［諮問理由］

変革の時代、大学はどうあるべきか――。それがいま、厳しく問われています。

本学は終戦直後の1945年秋、わが国の復興と繁栄、平和構築への願いを外国語教育に託し、「国際社会に貢献する豊かな教養を備えた人材の育成」と「公正な世界観に基づき、時代と社会の要請に応えていく実学」を建学の理念として誕生しました。

それから60有余年、世界を舞台に活躍し得る国際人の育成を掲げた建学の理念は、グローバル社会のなかで、さらに、その輝きと重みを増しています。しかし、一方で少子化や国際化の一層の進展、大学間競争の激化など、大学を取り巻く環境は激変しています。本学もまた、時代と社会の期待、ニーズに的確に応え得る「新たな大学像」を模索していかねばなりません。

今という時代は、閉塞感と不安感に満ちています。国際的にも、国内的にも、政治、経済、社会など、あらゆる分野で混迷が続き、不透明感を増すばかりです。「21世紀の世界」はどうなるのか――。米国では、初のアフリカ系米国人のオバマ大統領が誕生し、「夢と希望の再生」を訴えていますが、新たな世界秩序構築の道筋はいまだ、見えてはおりません。しかし、夢と希望の再生は可能であり、未来への展望は、必ず拓けます。その大きなキーワードが「チェンジ」であり、「変革」です。

本学もいまこそ、大胆で細心、かつ個性あふれる改革に着手し、国際競争力を高め、「より魅力ある大学」へと変わっていかねばなりません。本学誕生のときを“第一の開学”、1966年の4年制大学創設時を“第二の開学”とすれば、現在は“第三の開学”のとき、と位置付けてよいのではないかと受け止めております。

本学は、高度な専門職業人の育成、ならびに幅広い教養と豊かな人間性を備えた人材の養成――に主眼をおいています。「知識基盤社会」の確立が叫ばれるなか、本学の教育力をさらに強化し、高等教育の担い手としての魅力と存在感をどのように高めていくのか。強靱で、しなやかな、ダイナミズム溢れる構想力と実行力が求められています。

「カリキュラム・ポリシー」（教育）、「アドミッション・ポリシー」（学生募集）、「ディプロマ・ポリシー」（学士力とキャリア支援）をはじめ、あらゆる分野に「学生は受益者である」との視点から“検証のメス”を入れ、責任体制を明確にしつつ、「大学のかたち」にまで踏み込んで、本学の未来への確かなビジョンを策定していただきたいと考えます。

もちろん、改革は今回だけで終わるものではありません。これからも時代と社会の動きを先取りしながら、「永続的な改革」に取り組む覚悟と、たくましいチャレンジ精神が要求されます。今回の将来構想、長期ビジョンの策定は、その第一歩であるのです。

なお、基本構想に基づき、当面は短期、中期のアクションプランを作成し、順次、実行に移していく方針です。

以　上

**外大ビジョン策定の経緯**

2009年　1月10日＝谷本榮子理事長の発議により、将来構想検討委員会を理事長の諮問機関として設置。委員長は谷本義高・大学学長。教職員17人が委員となり、第1回全体会合を開催。
2009年　1月31日＝第2回全体会合で、谷本榮子理事長が中・長期ビジョンの策定を諮問。フリートーキング。
2009年　2月　8日＝第3回全体会合。フリートーキング。
2009年　3月　3日＝第4回全体会合。学生数1万人以上の堅持や、新学部の設置、学士力の保証と明確化、キャリア教育の拡充と国際化、ブランド戦略の推進――など、ビジョン策定の基本方針を確認。
2009年　4月24日＝教育改革、国際交流、キャリア支援、地域連携など、テーマ別のワーキンググループ設置を決定。中堅、若手教職員もグループ委員に委嘱。
2009年5月～9月＝ワーキンググループごとに議論を深め、具体案を作成し、将来構想検討委員会に提案。
2009年10月18日＝第5回全体会合。中、長期ビジョン「関西外大ルネサンス2009」を決定し、谷本榮子理事長に答申。
2009年10月29日＝理事会。中、長期ビジョンを報告、承認。